

平成29年度 佐久長聖中学校 学校自己評価

学校教育方針	中・長期的目標	今年度の重点目標
1. 礼節を重んじ、忍耐強く、誠実な人材の育成を図る。 2. 一人ひとりの個性を尊重し、授業・クラブ活動・館(寮)生活を通して、豊かな教養、感性、心身の健康を身につける。	1. 積極的、自主的な態度を養う。 2. 希望進路の実現をめざす。 3. 教職員の指導力を高める。 4. 校外から理解・支援される教育活動を展開	1. 生徒の様々な意欲をより高めることのできる学校づくり ・学習・生活・課外活動・館などすべての分野で、指導方法を模索し、質を高める。 ・生徒との前向きな対話のある生活指導・学級運営を行う。 2. 生徒の安全と安心の確保 3. 「6年一貫教育」の意義の再確認・再構築

評 価	A	十分
	B	概ね十分
	C	やや不十分
	D	不十分
	E	評価できない

分野	評価項目	評価の観点	評価	成果(具体的に何ができたか)	今後やるべきこと、実施に当たっての問題点
学 習 指 導	授業内容の充実	1 授業評価を適宜行い、その内容を踏まえて授業の方法を工夫・改善して、生徒の学ぶ意欲を喚起しているか。	B	・授業で扱った文法事項を使って英作文をさせることで、インプットしたものをアウトプットできる力を養った。・前時の反省を生かし、修正しながら授業を行っている。	・苦手な生徒と得意な生徒の両方の意欲を満たしていくこと。 ・授業ごとに評価をしていきたい。
	教科指導力の向上	2 研究授業のほかに教員相互の授業参観や相互批評をしているか。アクティブラーニングの手法を試みているか。	B	・2学期中に、学年の先生方全員に授業を参観していただき、アドバイスをいただいた。 ・アクティブラーニングは常に意識している。・県総合教育センター・駿台への研修参加。	・生徒が主体的に取り組む授業を目指したい。 ・他の先生方の授業を参観し、まずは「観る」力をつけたい。
		3 各種の模試・検定などの客観的データを教科会や各自で分析し、生徒の学力に応じた授業を行っているか。	B	・模試の結果をふまえて授業の内容に工夫を加えた。 ・生徒のレベルに沿って扱う教材に線引きをしたり進度を変えたりしている。	・個々の生徒の学力に応じた授業をどうしていくのが課題。 ・どの学力層を底上げするのかを考え、教科間の連携を図る。
	学習習慣の確立と自主的な学びへの導き	4 (学級担任として)生徒の学習状況・学習時間を把握し、面接によって個々に即した適切な助言をしているか。	B	・2回個別の面談を実施し、アドバイスすることができた。 ・日別教科別学習時間の表を作るなどして視覚化、学習を促すことができた。	・面談をする時間的な余裕がほとんどない。 ・個別対応のきめ細かさの徹底。
		5 (教科担当として)学力や時期に応じて質的・量的に適切な課題を出して、日々の学習や計画的学習を促しているか。	B	・ふだんは「日々学」としてノート提出、テスト前は問題集の提出を計画的に課した。 ・副教材、辞書の使い方を説明し、家庭学習ですべきことを伝えた。	・課題を出さない生徒への指導が難しい。 ・学習への取り組みの甘い生徒の改善を図る。
		6 生徒が自主的に取り組んだり探求したりする力をつけるための課題や学びの機会を、工夫して提供しているか。	B	・授業では生徒が考え、答えを見つけ出すようにグループワークなどを適宜導入した。 ・発展的なものも面白そうなものは積極的に取り扱った。	・「知りたい」「学びたい」と思う事柄を考える。 ・知的好奇心をゆさぶるような学びの場になるよう努めたい。
進 路 指 導	希望進路の実現	7 学級担任・教科担当として6年間を見通した指導をしているか。学年会・教科会がそのために機能しているか。	B	・大学入試によく出題される文法などを生徒に伝えた。研修会に参加し、最新の入試問題分析した。・1年後、高校までの過程を確認しながら進めることができた。	・中高の教科会を増やすこと。 ・全職員が中高両方を経験すると良い。
	新しい時代を展望できる進路指導	8 社会への視野を広げ、自分の人生の目標を考える機会としてのキャリア教育を、計画し、実施しているか。	B	・職場体験は将来の職業を考える良い機会になった。 ・クエスト(企業探究)の活動が充実していたと思う。クエストの聖華祭での発表実施。	・卒業生の話聞けるような機会があれば良いと思う。 ・その道で活躍している社会人の話を聞くこともよいのでは。
生 活 指 導	自律的生活の育成	9 服装・挨拶など生徒の自律的取り組みを促しているか。モラルや思いやりにつながる、心の指導をしているか。	B	・ほとんどのクラスで挨拶の指導をしている。 ・ルーム長会や校風委員の生徒をリーダーとして育てるようにした。	・学年によって差を感じる。・学年・学級での指導が必要。 ・教職員間での見解の相違がないよう統一した基準が必要。
	生徒相談といじめの発見・対処	10 担任・学年・部活顧問・館職員・生徒指導係等が連携を取りながら、適切に生徒相談に当たっているか。	B	・生徒一人ひとりとのお話を増やしている。 ・小さなことでも気になる生徒の言動については報告をしている。	・学年で対応した館生の情報は共有できていない部分がある。 ・相手のことを思いやって行動できる生徒を育てたい。
		11 現在の「いじめ」の定義(注)に基づいていじめを認知し、職員間で情報を共有して適切に対応しているか。	A	・学年会等で問題を共有し、その後個別に指導にあたっている。・アンケート実施。 ・毎週館ミーティングを行い、情報を共有し、適切に対応している。	・いじめに関するアンケートについて更なる改善が必要。 ・表に出て来ないようないじめにもアンテナを高くする。
	安心・安全を守る指導、安全を考えさせる指導	12 校内の安全点検や日常の目配りを重視し、事故や危険を防止できているか。	B	・異常に対しては敏速に対応し、生徒の安全に配慮している。 ・教室や校舎内を巡視し、安全点検ができた。	・館の外側の安全の配慮が必要と考える。 ・緊急時の行動をより確かにしていく。
13 校外での交通安全や防犯(インターネットによるトラブルの回避も含む)についての指導をしているか。		B	・スマホ・携帯等に関する生徒指導講話があったのはよかった。 ・外出する館生に対して交通事故等への注意を喚起している。	・定期的にインターネットの使い方を注意する講話が必要だと思う。 ・個人としてリサーチや指導ができなかった。	
開 か れ た 学 校	開かれた学校づくり	14 保護者や地域の方の意見・要望をくみとり、必要なことには、すばやく、的確に対応しているか。	B	・帰宅書での意見、要望などはすぐに電話などを通じ対応している。 ・2回の保護者懇談会や帰宅書などを通じて保護者の要望などに迅速に対応できた。	・提出期限のあるものについてはオクレンジャーで知らせることも検討する。・校外巡視を検討すべき。
		15 電子媒体や紙媒体を通して、各種の情報を生徒・保護者や一般に向けて、定期的に提供しているか。	A	・館通信や掲示を通じて必要な情報を提供してきた。 ・学校・学年・学級・館の各通信を発行。・HPに情報提供。	・さらに回数を増やしていく必要がある。・電子媒体による発信。 ・平出先生に頼り切りになってしまっている。
		16 地域の方や校外の団体等と交流できる機会を、生徒に提供しているか。学校として交流に寄与しているか。	B	・佐久地区主催の小学生の大会の補助員として中高生を派遣、地域の方と交流した。 ・部活の大会やコンテスト等への参加を促し、外部の方と関わる際の態度を涵養させた。	・生徒の希望進路に合わせた職場体験ができれば。 ・地域の方々、他の団体との交流を学校全体で考えていく。

(注)一定の人的関係がある生徒の中で、一方が他方に心理的・物理的な影響を与える行為をして、対象となった生徒が心身の苦痛を感じていること。一時的なものや謝罪して解決したものも、「いじめであった」と考える。